

## 「学校再編を進める方向性」 決定

令和8年2月5日(木)、12回目の検討協議会を開催しました。今回は、これまでの検討やアンケートの結果、また前回実施したグループワークの結果などを踏まえ、事務局と役員が用意した「方向性のたたき台」について意見を出し合いました。提案された内容は、結論として「学校再編(統合)を進める方向性」とするものでしたが、「将来の相模湖」「5年後・10年後の児童生徒の状況」を考えると、

「相模湖地区の学校の再編はやむを得ない」といった意見が多く出され、検討協議会として「学校の再編をして新たな学校の形を目指す」方向性を決定しました。

今後は、再編の形や時期などについて、検討を進めていきます。

「将来の子どもたち」のことを考え、結論を出しました



### 「たたき台」の概要

### 検討協議会の結論 (学習環境のあり方の方向性)

#### 「学校の再編(統合)」をして新たな学校の形を目指す

##### 改善が見込める課題



- ▶ 学習環境の改善
- ▶ 通学環境の改善
- ▶ 放課後の居場所改善

##### 市への要望



- ▶ 少人数教育の充実
- ▶ スクールバス・通学助成
- ▶ 新たな放課後の取組

##### 今後の課題との向き合い方



- ▶ 子どもの減少対策
- ▶ まちづくりとの連携
- ▶ 地域交通との連携



・アンケート結果  
など



・検討の経過  
・協議会委員  
の意見



・相模湖の状況  
・検討の背景

#### なぜ「学校再編(統合)」なのか

##### 学習環境の課題

- ▶ 多様な考え方に触れる機会・選択肢の増
- ▶ 「一学年1名」の状況を回避

##### 通学環境の課題

- ▶ スクールバス導入により登下校の安全向上
- ▶ 「少人数での下校」回避
- ▶ 通学補助導入により家庭の負担減

##### 放課後の居場所

- ▶ 放課後も他地域の子も同士が交流
- ▶ 集団での下校が可能(同じ地域・きょうだい等)

より「相模湖のデメリットを最小化」することができる方向性

#### なぜ「現状維持」ではないのか

- ⇒ 現状のままでは最小化できないデメリットがある
- ▶ 「5人以下のクラスの発生」▶ 「男女の偏りの可能性増」

喫緊の課題への対応が必要

## 第12回検討協議会での主な意見



・「現状維持」の方向性に関しては、残念ながら最小化できないデメリットがある。

・子どもたちには多様な関係性を築いてもらいたいので、統合の方向性が良いと考えている。



・近い将来、千木良小や内郷小の新入生が1名という話も聞いており、その子たちが入学する前には学校を統合して、より良い環境で教育が出来ればと思う。

・地域としても、保護者の目線でも、新入生が1名といった状況はどうかしてあげたい。



・前回のグループワークにおいて、「現状を維持した場合」のメリットやデメリットについても話し合って発表した。皆で意見を出し合って発表したにもかかわらず、この協議会の中では「現状維持の方が良いな」と気持ちが傾く人間は出なかった。

・我々は10年後の相模湖を考えた時に「学年に2、3人しかいない」という状況を見据えて議論しているはずである。



・最後は、5年後、10年後の子どもたちの人数を考えることが一番大事。

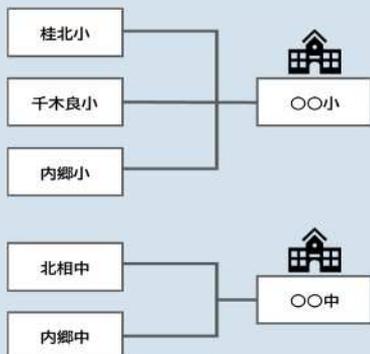
## 今後の検討（再編のパターンなど）

今回の検討協議会では、今回決定した方向性を元に、これまでの議論などをまとめた報告書のイメージを確認するとともに、学校再編のパターンや時期、学校の設置場所などについて話し合う予定です。引き続き、相模湖の子どもたちにとってのより良い環境を検討していきます。

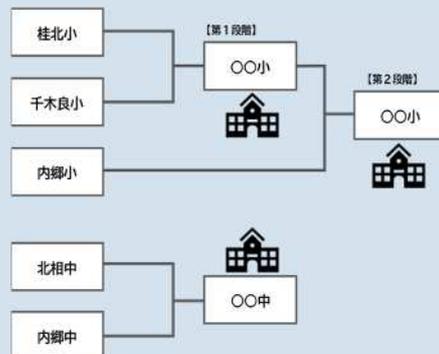


### 再編パターンの一例

【パターン例①】



【パターン例②】



【パターン例③】



\* 次回の検討協議会

3月下旬頃 19時から

@相模湖総合事務所 大会議室  
(詳細は事務局にご確認ください。)

\* 検討協議会の議事録や資料は、次の場所でご覧いただけます。

@ 相模湖行政資料コーナー(相模湖総合事務所2階)  
@ 相模湖・千木良公民館 @ 相模湖地区の各小・中学校

\* 「検討協議会ニュース」の  
バックナンバーなどは  
こちらから(市HP)

